目次

□文科會に對する希望　湯原校長
□獨創的精神の保姆地　内ヶ崎先生
□倭繪につきて（續き）　下村三四吉先生
□舊師　尾上柴舟先生
□殖民地における國語教育
□デモクラシー及び二三の問題について
□私の解するデモクラシー
□學生平和會議
□ひかり
□我等をして
□實盛塚
□野のみち
□花
□會員諸君へ
□編輯室より
□會計報告

文科學術談話會會誌　第二十三號

文科に對する希望

湯原校長

本校には、文科理科家事科の三科に分れて、その中にいづれが重い輕いといふ事は出來ないが、しかし、思想問題に關係のあるのは、云ふまでもなく文科である。近來輿論もやかましく批難するやうに、社會の趨勢はやゝ物質偏重の傾があるのは事實である。これは、社會の生活狀態の變遷に俱つて免れ難い事であるけれど、このまゝ打ち棄ておけば、ゆゝしき大事にならぬとも限らぬ。

西洋諸國の狀態を一面から觀れば、近世科學の進歩と共に、如何にも、金即ち力といふ狀態を呈して、その進歩は主として物質方面に表れてをるやうに思はれるけれど、それにも關らず人心はいかにも健實な處がある。信義を重じ、且一旦事があれば、上の命令を待たずして奉公の至誠を捧げるといふ事は、今回の大戰に當つて、よく著くあらはれ、證明された事實である。これは畢竟物質的方面と同時に精神的方面の教育を怠らなかつた結果此處に致つたのである。元來科學といふものは、一つの思想の發現に外ならない。科學其のものの應用を觀ば、指先の仕事のやうに、或は機械の働きによつて成功するやうに見えるけれど、その本をなしてゐる者は、やはり思想である。しかも靜玄にして深奥なる思想である。それ故に、その本に於てやはり一

般の哲學思想と交渉あるのみならず、その中に沒入してゐる。從て大なる科學者は同時に大なる哲學者である。ヘルムホルツは、物理學者生理學者として有名であるが、その根底に於ては一種の哲學者である。この人がよく哲學上の問題に引き合ひに出されるは之が爲である。ヴントの如きも初めは、醫學を學び生理學を專攻し、實驗心理に移り、遂には今日の總ての哲學問題の解決に從事するに致つた。今日では世界有數の哲學者として一代に名を馳せてゐる。彼の理論的科學、ケミストリーの開祖と呼ばれ、この方面に於ては、幾多の貢獻をなし、科學者の泰斗として仰ふがれたウイルヘルムオストワードの如きも晩年には科學から進んで一種獨特の哲學をひらいて一元論者のモリステンの首領として、盛に思想問題に意見を發表し、現世の制度を非難し、殊に教育上の缺點を指摘して、獨逸國民は云ふまでもなく世界に大なる警告を與へてゐる。要するに大なる科學者は大なる哲學者でなければならぬ。思想の根底を哲學に置くか、又は哲學に歸着しなければ大なる科學者である事は出來ぬ事は、以上の二三の例によつても知られる。この例は他にも多く、カント、スペンサー等は、殆んど哲學者か科學者かわからぬ。一身に兩面を備へてゐる。大なる科學者は大なる哲學者であるといふ事になれば、小なる科學者もその思想に於て、哲學と關係を持つてをらねばならぬ。例へば物理學に於て、現象について研究しその後、現象の本になる勢力、エナージーに考へが及ぶと、こゝに物理科學者の頭は一轉換して哲學の領分を眺める事になる。エナージーの變化若くは、その本體にまでも思ひ至り、そこに思ひをひそめれば、此れはもはや科學者から哲學者の領分に踏み込んだものと云はねばならぬ。かくの如く哲學と關係を保つ科學にして、初めて、進々として止まざる進步をなす事が出來る。此れに反して、利害の打算の上から若干の利益をあげようとするこの淺薄な考へよりして起つた科學サイエンスは

決して大成するものでない。そこで、歐諸國の目下の妍爛たる文化を羨む者は、單に物質的方面のみならず併せてその精神的方面を考察する事を忘れてはならぬ。國民固有の哲學思想を知つて、初めてその國の文化の特色が理解される。英の實際的思想もやはり、此處に至るについては、昔の英固有の哲學に基く。例へばベーコンの如き人が出て英固有の哲學の發端を開く。其の結果波瀾はあるとも、其れが基となつて、今日の如き英獨特の文化を發現し、英の文化はベーコン式となる。その他文化の發現たる學術、技藝皆其色彩を帶ぶ。獨逸は英に較べれば、いくらか理論的である。それは、カントによつて大成された獨固有の哲學によるので、その前に種々の異論は百出してをつても、大體の本筋に付て考へて見れば、やはりカント式である。ベーコンを生んだものは、英の國民性でカントを生んだ者は獨の國民性である。國民性と大學者との間には、その間に相互の關係がある。一旦ベーコンが生れると、國民性は大に發現し、それを一步進めるに至る。基は國民性であるけれど、大哲學者によつて一大發展をする。獨國民性とカントに於ても亦然り。英獨米皆この關係は疑はざるべからざる事である。それで、只一見して觀れば、世の中の現代の文化は物質萬能のやうに思はれるけれど、そのよつてゐる處は深く國民固有の精神の奧底から發する者である。その固有の精神は、幾多の哲學者科學者藝術家によつて代表されてをるのである。之によつて見ても、國民の思想の教育を等閑に附してはならぬ事がわからう。つまり末の發展を圖る者は源泉を忘れてはならぬ。尙、西洋思想の健實の原因に忘れてはならぬ者がある。之は古來養成し來つた宗教基督教の勢力である。表面の教會の勢力は衰へたけれども、それは形式上の事にして基督教の精神は時を逐ふて上下の階級間に進入し、しかも改善されてゐる事を認めねばならぬ。この事も西洋の國民性を健全ならしむる一因たる事を忘れてはならぬ。

飜つて、我が國の現狀を觀れば、道德上の觀念に於ても動搖を來し、上下擧つて何となく不安の念に驅られてゐる。教育家は國民道德の徹底に努力して至らざる處なきも、結果に於て遺憾な處がある。殊に信念に最も關係ある宗教の勢力も現時に一向振はぬ。しかも宗教上には餘りにその種類多數で、從つて宗教家は國民の信念涵養に勉めるよりも、むしろ其の宗派の發展策を考ずるに急々としてゐる。其の結果其のやり方は政治家風になつて、國民の精神の缺陷を指摘して、其の反省を促して、而して其の信念の强固をはかる事を等閑にする事無きにしもあらず、かくて一面に於ては、その狀態に不滿を感じて國民の思想統一をはからねばならぬといふ聲が、日に日に益々大となつてゐる。であつて各種の救濟策も盛に講ぜられる。それを講ずる人の出發點が名々勝手に異る處があつて、議論に於て一致の點を見出さぬ。道德論の盛な點に於て世界一と云つてもよいが、その實行の點より云へば、遺憾な處がある、道德は云ふまでもなく、實行の問題で議論の問題でない。西洋の學者がいふやうに藝術と道德に付て言葉は一言の價値もない。只之を良く爲るか否かがその主たる問題でなければならぬ。然のみならず人心の不安の間隙に乘じて外國の思想は續々として流れ入り、此方に缺點がある故に如何なる邪論や僻說も、やゝもすれば無批判の間に歡迎せられる事も往々ある。之が爲にいよ〳〵ます〳〵國民全體をして思想上に不安の念を釀す結果を來す。さういふ風にして、一面に於ては世界の大勢に卷き込まれて、經濟上の困難即生活上の有樣が一變して、此處に猛烈に生存競爭は呼び起され、生活上經濟當面の急を救はんが爲には、靜に自己の良心に訴へて自己の進退を決する暇がないやうな境遇に陷る人が、益々多くなつて來る。それで遂に一世を擧げて何事も打算的行動に出づるといふ大勢を致したのが今日の狀態である。この風は獨り社會の實業方面のみならず、教育界に普及して、學生がその

專問を選ぶについても、同じ徑路を踏んで行く事になり、大新以來の成功者は主として、商業家といふ事實を見れば、忽ちに青年は商業學校の門前に集るといふ憐むべき現象を呈するのである。そして一方に於ては實利實益と緣の遠い文學の如きは、殆んどあたかも閑事業であるやうにして、天下の人が之を輕く視て、文科大學の思望者等その數に於て激變を來した。從つて、師範學校の如きはいづれも、募集定員にも滿たない有樣である。かういふ有樣なれば、今の青年中に於て餘程の變り者でなければ、自ら一身を思想家として立てゝゆく者がないといふ事に至らざるを得ない。即ちかゝる有樣でどうして國家が、西洋諸國と比肩して、國家の文化を進步せしめ、西洋諸國のそれと併馳せしむる事が出來ようか。

前に述べた樣に、西洋諸國の物質文化の源泉が極めて深奧なる哲學とすれば、我が國に於ても然らざる以上はとても健全なる基礎の上に國家を發展せしむる事の不可能な事は明瞭な事である。思想も空論空理の事ではいけないが、空論空理必しも排斥する事は出來ぬ。一時空論空理と云はれた事が、實際上の事實となつてあらはれる事は、昔から實際上の事實にある事である。人間として一言一行悉く算盤の範圍を出ないといふ事であれば、その人格は推して知るべし實際生活を健全に營むと同時に多少思ひをその以外に馳せるといふところに初めて紳士といふ資格がある。一國亦然り。何等の思想なき國家といふものは劣等な國家である。支那の衰へた所以、ジユダヤ人の漂泊の民となつた所以を思へば、容易にこの道理を了解する事が出來ると思ふ。

以上は大體についての所見であるが、それに我校の文科について考へて見れば、將來教育上に起る教育學として最も苦心して取扱はれてゐる問題は、動搖して定まらぬ思想問題である。若し我が國民の思想にして

御維新前のある一定の範圍以外に出でざる固定の狀態にあるとすれば、この場合に於ける教育家の仕事は誠に易く、只一般の承認せる事を傳達するの外は、何等特別の工夫を要せず。然るに今日の如く、新舊思想が互に相衝突し、中には激烈に反目する場合にありて、その間を如何にするかといふ事になれば、教育者はその問題については、十分に研究する必要がある。新しい思想に向つて、只その舊思想に違ふが故に、その思想は惡いといふが如き、例へば、青年が種々の思想を提出すると、お前の說は結構であるが、それは論語にも孟子にもないといふ一言の下にはねつけるとすれば、教育家の仕事は何の苦もないが、それでは教育家の目的たる人心の指導は出來るわけではない。前にも言ふた通り、將來に於ては、國內の社會狀態の變化ならびに、西洋諸國に於ける事情の變化に促されて、種々樣々の新しい意見が續生して來る事を覺悟する以上は先第一に教育家は之に對して相當の批判を加へ、之を取捨する能力がなければならぬ。甲の國で健全な思想も、乙の國で不健全と認めざるを得ざるものがある。要するに、その國の國利民福と背馳するものは、深い學理的の根據があつても、之を反對しなければならぬ。いはんや實際生活に關する學說は、サイエンスのセオリーと違つて、悉く妥當性を備へてゐるものと視る事は出來ぬ。それ故に、ある物に對しては實際上の利害を考へて其の採否を決する必要がある。その採否を決するについては、それ丈の能力がなければならぬ。その能力を豫じめ養成しておかねばならぬ。

今日の教育家になるには、今の樣な必要があるが、その爲には、準備として哲學概論位は一通り心得ておく必要がある。もつと深く學ぶ必要があるけれど、それは時間がゆるさぬ。少くも概論に通じておけば、淺薄なる素人嚇しの意見に對してたゞちにその根據を覆へす事が出來、又批判の能力は多少之によつて養はれ

ると思ふ。餘人はいざ知らず、教育家として人物養成に當る者はこの位の心得が必要である。しかるに教育家の樣子を觀ると、この準備に缺けてゐる。今日の青年が如何なる本を讀むかについて、一向知らない。たまに之を知らうとすれば、青年を招んで意見を發表させる。青年はそのまゝ意見を發表する者でない。かゝる手段を取るより青年に愛讀される種々の著述を知ればわかるのに、之を讀まうとしない。初めから、青年の讀む本にろくなものはないとし、或は初めから恐れて手にしない。而て青年に對する態度如何と云へば、自分の教へた事に反對すれば、一も二もなく反對して、惡德呼はりをする。之は强ひて眼孔を小さくして世間を狹くするものである。己はそれで安んずるのはよいとして、一般世人に對ても己の如くなれといふは、實に愚の至りである、かゝる輩は耳おふて鈴を盜むと云はれても辯解の言葉はなからう。要するに煩亂して止まぬ思想を人力を以て防く事は出來ぬ。これを利用してよく導いて、國家社會の害をなさぬようにするに他ならない。世界にある思想は、相當に取るべき眞理を含んでゐる。取るべきを取り、その他を棄てるは、社會の有識界の仕事である。昔、佛教儒教が入つても、我が國は大した弊害を受けぬのみならず、かへつて進歩した。我が國の思想から儒教や佛教を取除けば、貧弱になる。儒教は大いに我れに貢獻する處あり、今日かくの如く至つたのは、當時の有識が之を研究し取捨して傳達したからである。儒佛必ずしも國民道德と相容れない者がないではない。むしろ、國民思想と反對な思想もある。之が害をなさぬのは、その利用宜しきを得たからである。

しかるに現代の新思想に於て之をおふ者は青年で經驗も淺い、先輩は進んで研究もせず、青年に委ねる。青年の間には無批判に沒入し、之が爲に害を受ける事無きにしもあらず。かくの如くにして、十年二十年し

て青年の思想の變つてゐるに驚いて、その救濟として維新前の固定せる精神にかへさうとするは出來ない事である。可能であるとしても、思想は社會の進歩と順應するもので、これは人類文化の一大法則である。この事情を知つて、殊に教育家たる者は教育家として青年の指導の任に當る者は宜しく一見識を以つて、この續生して止まぬ新しい意見を巧みに取り扱ふやうに準備しておかねばならぬ。之が將來の教育家の最も勉むべき一大任務である。文科は思想に直接の關係があるから、之が準備をなすには文科の生徒諸子に大に希待するのである。獨り教場に於てのみでなく、文科會の自由研究に於てもなさねばならぬ。しかるに、文科會は聞く處によるとあまり振はぬといふ事である。之は甚だ惜むべき事であるから、將來は奮發してその進歩をはからねばならぬ。（文責在記者）

獨創的精神の保姆地

內ケ崎先生

文科會で何かお話をせよと下田先生からの御話で、獨創的精神の保姆地と云ふ題を出した。源泉とか、根源とか云ふ題を出しても良いが婦人方の學校であるから、保姆地としたのである。

獨創的精神と云ふ事は、現今教育會の問題となつてゐる。教育調査會の有志者が、人心歸一案とか統一案とか云ふものを發表し、國體の大義を鮮明にすると云ふが中に、獨創的精神と云ふ事を書いてある、其說明は充分でない。獨創的精神の開發と云ふ事は、近來痛切に感ずるやうになつて、殊に、歐洲大戰亂以來歐米に於て、その傾向は旺盛に、表はれてゐる。例へば英國には陸軍の常備が殆どなく、義友兵制度であつた。然るに英獨開戰の時常備兵が凡六百位であつたので、フレンチ將軍がベルギー及び獨逸北部に入つた時には、ドイツの將軍が輕蔑したが、それが瞬く間に百萬となり、四五百萬に達した。米國は從來陸軍は弱いので馬鹿にされてゐたが、ウキルソンの決斷により、俄に陸軍が出來た。寺內首相があれを評して兵士が出來たのは良いが、士官は誰に命ずるかと云つた。然るに大學生を養成して半年位で士官に仕上げたと云ふ。米軍の參加は日尙淺く、戰線の距離も短かく陸軍の眞價を發揮することが出來る前に終結してしまつた、從て正當の批評を下す事は出來ないが、大學生を教育して相當な士官ができたと云ふ事は認めなければならぬ。これは獨創的精神があるからである。

フォーア、ミニツマン、即ち四分間の人と云ふものがあつた。五百人ばかりの政治家教育家から成立してゐ